議　事　録

Ⅰ　主任研究者、分担研究者打合会

1．第1回会議

日　時：昭和62年4月3日（金）午後5時半～7時

場　所：東京ステーションホテル

出席者：竹村、多田、中野、小川、下川

議　事：

1）昭和61年度報告書について

ほぼ完了、近日中に厚生省に提出の旨、竹村班長より報告、全員これを了承。

2）昭和62年度研究計画について

前年度の宿題となっている母体搬送と長期入院児の問題を検討するとともに、各班独自の研究をすすめることとなった。

今後の日程について協議した。

2．第2回会議

日　時：昭和62年6月1日（月）午後1時～2時半

場　所：東京・私学会館

出席者：竹村、多田、中野、小川（代理　川瀬）、小林

議　事：

昭和62年度の研究計画について

1）班全体としてのアンケート調査を実施する。

2）中野班では母体搬送に関する調査も行う。

3）小川班ではchronic intensive careの実態調査も行う。

3．第3回会議

日　時：昭和62年7月6日（月）午前11時半～午後2時

場　所：東京・私学会館

出席者：竹村、多田、中野、小川、下川、小林

議　事：

1）本年度研究計画について－とくにアンケート調査について

(1)　調査の大網について

(2) 調査方法、対象、日程について

2）本年度班員の構成（研究班名簿）について

昨年度そのまま全員班員となり、新たに多田班に大阪府立母子保健総合医療センター小林美智子主幹を加える。

3）支出予定額内訳書の提出について

4）第1回全体班会議について

9月5日（土）名古屋市、愛知県医師会館において行うことになった。

4．第4回会議

日　時：昭和62年10月5日（月）午前11時半～午後3時

場　所：東京・私学会館

出席者：竹村、多田、中野、小川、下川、小林

議　事：

1）調査用紙の作成（アンケートの最終案）

2）分担会議、全体会議について

(1) 分担会議、昭和63年1月31日（日）東京

(2) 全体会議、昭和63年2月11日（祭）大阪

5．第5回会議

日　時：昭和62年12月14日（月）午前11時半～午後2時

場　所：東京・私学会館

出席者：竹村、多田、中野、小川、小林

議　事：

1）昭和62年度報告書の作成について

2）分担班会議について

昭和63年1月31日（日）東京都母子保健サービスセンターにおいて行う。

11時より見学

1時より中野、小川班

4時半より、多田班

3）第2回全体班会議

昭和63年2月11日（祭）午後1時～5時　大阪．ホテルくれべ梅田において行う。

6．第6回会議

日　時：昭和63年3月7日（月）午前11時半～午後1時半

場　所：東京・私学会館

出席者：竹村、多田、中野、小川、小林、

議　事：

1）本年度報告書について

2）本年度経理について

3）来年度計画について

4）今後の日程について

Ⅱ　全　体　会　議

1．第1回全体会議

日　時：昭和62年9月5日（土）午後1時～2時20分

場　所：愛知県救急医療情報センター

出席者：厚生省母子衛生課　網野　豊

主任研究者　竹村　喬

分担研究者　多田　裕　中野　仁雄　小川雄之亮

研究協力者

（多田班）井村総一、柴田　隆、竹内　徹、竹峰久雄、谷澤　修、仁志田博司、本多　洋、水野正彦（代理、上妻）、小林美智子

（中野班）佐藤　章（代理、野口）、神保利春（代理、原）、竹村秀雄、千葉喜英、寺尾俊彦、西島正博、野口圭一、武田佳彦（代理、中村）、下川　浩

（小川班）五十嵐郁子、稲川　昭、鬼頭秀行、後藤彰子、竹内　豊、千葉　力、中村　肇、戸苅　創、増本　義

当日参加者　大槻芳朗、武井治郎、鈴木重澄、稲本　裕

議　事：

1）厚生省母子衛生課　あいさつ　網　野　豊

2）昭和62年度研究計画について　竹　村　喬

昭和61年度の研究結果は、

①　地域における周産期医療システム

②　母体搬送

③　ＮＩＣＵの現状

④　超未熟児の出現増加

⑤　新生児医療と倫理について

であった。

昭和62年度には班として調査を行いたい。

3）「日本母性保護医協会の母子救急体制についての全国調査報告」　本　多　　洋

周産期医療の地域における組織化のためには、一次医療、二次医療機能した「母子救急体制」を編成する事が必要である事は一般に言われている。

日母が把握している昭和60年度の妊産婦死亡の中で一次医療機関におけるものは28人、二次医療機関におけるものは 178人であり、二次医療機関が多く、二次医療機関のあり方を検討する必要がある。

二次医療機関の条件としては

①　産科医が２人以上いる

②　搬送の手段がある

③　緊急受け入れ用の病床をもつ

④　麻酔医がいる

⑤　夜間の受入れ体制がある

⑥　新生児を扱える医師がいる

が考えられる。

この本多報告に関して質議・討論を行った。

4）経理について

本年度の経理などについて事務局より説明した後、各分担班に分かれ昭和62年度研究計画について検討をおこなった。

尚、全体会議の前に愛知県救急医療情報センターの見学を行った。

2．第２回全体会議

日　時：昭和63年２月11日（祭）午後１時～５時

場　所：ホテルくれべ梅田（大阪）

出席者：厚生省母子衛生課　　石　塚　正　敏

宮城島　一　明

主任研究者　　竹　村　　喬

分担研究者　　多田　　裕　　中野　仁雄　　小川雄之亮

研究協力者（記名順）

下川　浩、増本　義、池ノ上克、小林美智子、水野正彦（代理、桑原）、千葉

力、竹内　豊、西島正博、竹峰久雄、谷澤　修（代理. 大槻）、竹村秀雄、五十嵐郁子、竹内　徹、稲川　昭、千葉喜英、柴田　隆、戸苅　創、鬼頭秀行、野口圭一、神保利春、寺尾俊彦（代理、稲本）、仁志田博司、後藤彰子、中村肇、佐藤　章（代理、野口）、井村総一

当 日 参 加 者

安日一郎、浮田昌彦、上塘正人、鮫島　浩、下村虎男、川瀬　淳、笹井康典、山中英二、年禮一秀、森下　裕、前田博敬、鶴田菊江、横尾京子、唯　正一、山田正雄、小野和男、松岡松男、小川次郎、犬飼和久、大和スエノ、志賀清悟、諏訪美島、原　量宏、木下隆弘、中村　敬、柳田昌彦、藤本喜美子、亀山順治、多賀琳子、宮本紀男、藤本　昭、岩下光利、柳田　昌、林　正樹、古結一郎、平　省三、寺村定雄、松本雅彦、稲森美穂子、中川　襄、道本和子、船戸正久、李　容桂、山村博三、平井　博、末原則幸、藤井　悳、岡野真規代、福井雅夫、藤村正哲、三科　潤、江原伯陽、

議　事：

1．あいさつ　　竹　村　　喬

2．米国議会「乳児死亡の予防についての国際公聴会」の報告　石塚正敏

3．討論会：周産期医療をめぐる諸問題

―― 特に産科救急の実態とＮＩＣＵの問題点について ――

1）実態調査

(1) 東邦大、新生児科　多田裕：医師・看護要員、夜間・救急患者の受入状況、休日・夜間救急体制など

(2) 九州大、産婦人科　中野仁雄：症状からみた産科救急、母体搬送の実態、情報伝達など

(3) 埼玉医大、小児科　小川雄之亮：ＮＩＣＵ入院児の実情、院外出生児と情報伝達

2）追加発言

(1) 鹿児島市立病院、産婦人科　池ノ上克：母体搬送の対象、効果など

(2) 北里大、産婦人科　西島正博：母性搬送の地域化

(3) 大阪府立母子保健総合医療センター　末原則幸：母体搬送先（受入れ）の現状

(4) 神戸大、小児科　中村　肇：大学におけるＮＩＣＵと新生児搬送

(5) 名古屋市大、小児科　戸苅　創：長期入院例と新生児搬送。

(6) 順天堂大、小児科　柴田　隆：産科施設をもたないＮＩＣＵのありかた

Ⅲ　多田班「周産期医療に関する総合的研究」班会議議事録

1．第　1　回

日　時：昭和62年９月５日午後４時～午後５時

場　所：愛知県医師会館

出席者：多田　裕、網野　豊、竹村　喬、小川雄之亮、中野仁雄、井村総一、小林美智子、柴田　隆、竹内　徹、竹峰久雄、谷澤　修、仁志田博司、本多　洋、水野正彦、下川　浩、大槻芳郎、川瀬　淳

議　事：

１）昭和62年度分担研究班年次計画

昨年度と同様に本年度も１月に全体班会議を開催し、出席者は分担研究者、研究協力者のみでなく、拡大してこの分野に関心のある研究者の参加を求め、シンポジウム形式で検討をおこなうこととした。

２）本年度の分担研究計画について

本年度の分担研究計画につき検討し、本年度はわが国の周産期医療の実態を解明するために、アンケート調査を行い、この分析を中心に研究を進めることになった。

当分担研究班としても、調査項目を検討し、全体の中に含めて調査することとした。また周産期に関する教育が不足していることも重要な問題であり、教育制度に関しても調査が必要なことが指摘された。

2．第　2　回

日　時：昭和62年11月９日　午前11時～午後２時30分

場　所：東京・私学会館

出席者：多田　裕、宮城島一明、竹村　喬、小川雄之亮、中野仁雄、井村総一、小林美智子、柴田　隆、竹内　徹、竹峰久雄、谷澤　修、仁志田博司、本多　洋、水野正彦、下川　浩、大槻芳郎

議　事：

１）本年度の調査について

本年度の分担研究計画に従い、わが国の周産期医療の実態を解明するためのアンケート調査について検討した。調査施設は、本年度は班員およびその関連施設とし、具体的な調査項目を検討した。

２）教育に関する調査について

周産期に関する教育制度が十分でないことが、わが国の周産期医療の大きな問題であり、本研究班でも検討する事が必要であるが、既に小児科側から、小児科白書の中にこ

の問題が取り上げられているので、本年度のアンケート調査の項目からは除くこととした。

3）経営問題について

周産期医療は、要員や施設などの面で極めて高度な水準を要求されるという特殊性から、その経営面を検討しないとその整備や運営が困難である。しかし、この問題は重要な問題なので、明年度の本研究班の主な研究課題とする事とし、本年度の調査項目からは除くこととした。

4）調査用紙の作成

以上の検討により、本年度の調査案および調査用紙を作成した。

3．第　3　回

日　時：昭和63年1月31日　午後4時30分～午後5時30分

場　所：東京都母子保健サービスセンター

出席者：多田　裕、宮城島一明、竹村　喬、小川雄之亮、中野仁雄、井村総一、小林美智子、柴田　隆、竹内　徹、竹峰久雄、谷澤　修、仁志田博司、本多　洋、桑原慶紀、下川　浩、大槻芳郎、川瀬　淳

議　事：

1）本年度の調査について

本年度の調査の集計結果につき検討した。

2）全体会議の開催と運営について

2月11日に全体班会議を大阪で開催し、分担研究者が調査項目につき分担して報告し、その後各分担研究班の研究協力者の中から、演者を選び、これに関連する問題を討論することとした。

3）報告書について

全体会議の討論は、速記し報告書として公表することとした。

Ⅳ　中野班「母性・胎児医療システムに関する研究」班会議議事録

1．第　1　回

日　時：昭和62年9月5日　午後2時～4時

場　所：愛知県医師会館（名古屋）

出席者：（敬称略、アイウエオ順）

稲本　裕、竹村秀雄、千葉喜英、中林正雄、西島正博、野口圭一、野口まゆみ、

原　量宏、下川　浩、中野仁雄

1）報告事項

(1)　昭和61年度研究報告書は9月下旬に配布できる。

(2)　経理に関して次の諸点が注意点として報告された。

①　旅費：1000km以上で航空機が使用できるが、その時は航空券が証拠書として必要。又昨年度よりＪＲ旅費が時期により繁忙期、閑散期に区分され積算基準が異なる（詳細は昨年度配布の「事務処理について」の運賃一覧表の欄外に記載）。宿泊費、日当については、国家公務員の場合その等級に応じて支出してよい。

②　賃金・謝金：賃金　一人日額 3,820円、謝金一人日額10,810円に変更。

③　需要費：書籍は1万円未満を消耗品とする。1万円を越すものは備品とする。コンピューターのソフトは消耗品とする。計算機は低額であっても備品となる。

④　研究費の執行にあたっては5月20日以降の日付で行う。

(3)　今後の日程

昭和63年1月10日　分担研究班研究協力者会議（東京）

2月11日　全体班会議（大阪）

2）協議事項

本年度研究は研究計画概要（別紙）に基ずいて行うことで了解された。班全体としては患者の搬送、情報の伝送、効果の評価の諸点について調査を行う。又、研究協力者の行う各個研究については、概要に沿ったテーマでできる限り行う。

又、調査内容については、基本的に「案」の内容で了解された。対象疾患については、産褥期の搬送等母親のみの搬送例も含めることとする。調査対象機関、期間については、小川、多田班と相談し統一したものとする。調査用紙は分担研究者会議で討議した後、各研究協力者に送付する。

2．第　2　回

日　時：昭和63年1月31日　午後1時～4時

場　所：東京都母子保健サービス・センター

出席者：（敬称略、アイウエオ順）

池ノ上　克、稲本　裕、大槻芳郎、上塘正人、神崎　徹、桑原慶紀、佐藤　章、下川　浩、神保利春、末原則幸、竹内　徹、武田佳彦、竹村　喬、竹村秀雄、多田　裕、千葉喜英、巽　英樹、寺尾俊彦、中野仁雄、中林正雄、西島正博、野口圭一、本多　洋、村岡光恵、谷澤　修

議　題：

1）報告事項

会計報告作成上の注意点に関して下川より報告があった。又、本年度の研究報告書は、本研究班で実施した周産期医療の実態調査の結果を中心に構成し、各研究協力者の研究報告の掲載は研究協力者の希望にそうようにしたいとの報告があった。今後の日程に関しては2月11日に大阪で班会議をもち、そこで調査結果の報告を行う旨報告された。

2）研究報告

本年度の研究協力者の研究報告が以下のように行なわれた。

周産期医療の現状について神保、竹村、千葉、野口の各研究協力者より報告された。野口から今日の母体死亡の30%以上は妊娠期間一度も医療機関に受診していない妊婦であり母体死亡を減少させるためには、これらの妊婦に対する対応を考慮していく必要がある旨報告された。又、母体搬送が普及しつつある現状を踏まえてその効果の判定法と実際の効果について武田、寺尾、西島から報告された。早産児に関しては搬送後48時間以上妊娠を継続した例で、それ未満の例に比較して児の転帰は良好であることが報告され切迫早産での胎児管理の重要性が強調された。一方、前期破水例では妊娠継続期間と児の転帰とは必ずしも相関せず、胎児を対象とした母体搬送においても異なる質のものがあり効果の判定法については幾つかの異なる軸を設定する必要があることも指摘された。池ノ上は切迫早産例で搬送後の胎児管理の時間を確保するうえで必要な搬送のタイミングに関して報告した。

佐藤、下川は、本年度行った調査の集計結果について報告した。

V　小川班「新生児救急医療システムに関する研究」班会議議事録

1．第　1　回

日　時：昭和62年9月5日（土）午後1時30分～4時

場　所：愛知県医師会館会議室

出席者：班　長；小川雄之亮

班　員；五十嵐郁子、稲川　昭、鬼頭秀行、後藤彰子、竹内　豊、千葉　力、戸苅　創、中村　肇、増本　義

議　事：

1）会計の説明

2）本年度研究計画についての討議

昨年度の研究報告をふまえて、本年度は班員全員がそれぞれの地域におけるchronic intensive careを必要とするハイリスク新生児の実態を調査することに意見が一致した。

対象は昭和61年１月１日から同年12月31日までの１年間に出生し、連続３ケ月以上ＮＩＣＵに入院したか、あるいはＮＩＣＵにひきつづいて他の病棟もしくは他の病院で継続して入院治療を要した例とした。調査方法や調査内容の詳細は各研究者の裁量で行なう事とした。

３）竹村班全体としての周産期医療に関する実態調査のためのアンケートについての説明と協力依頼

２．第　２　回

日　時：昭和63年１月31日（日）午後１時30分～４時

場　所：東京都立大塚病院会議室

出席者：厚生省；宮城島一明技官

班　長；小川雄之亮

班　員；五十嵐郁子、稲川　昭、鬼頭秀行、後藤彰子、竹内　豊、千葉　力、戸苅　創、中村　肇、増本　義

班員外参加；多田　裕、川瀬　淳、柴田　隆、竹峰久雄、小林美智子、井村総一、上谷良行、仁志田博司、江口秀史、秋山和範、中村　敬、（順不同）

議　事：

１）事務報告

２）各班員の研究報告及び討論

報告演題は以下の通り

稲　川：北海道における新生児長期慢性疾患入院患者について

千　葉：青森県における早期新生児期からの長期入院例の実態

竹　内：千葉県における長期入院ハイリスク新生児の実態調査

後　藤：神奈川県下における新生児長期入院患者の実態

鬼　頭：静岡県内の３ケ月以上継続入院新生児の実態調査

戸　苅：愛知県における長期入院ハイリスク児の実態

中　村：兵庫県下における新生児長期入院患者の実態

五十嵐：岡山県におけるＮＩＣＵ長期入院例の実態

増　本：ＮＩＣＵで長期管理を要した症例

小　川：ＮＩＣＵにおける Chronic Intensive Care を要する新生児例

―― 埼玉県における調査成績 ――

３）竹村班の班員所属の施設における周産期医療の実態に関するアンケート調査の新生児関係の項目についてのまとめの報告と討論

まとめの報告：小川雄之亮、川瀬　淳